

途上国の多様性を理解した上で 国際協力を考えてみよう

国際協力を考える時に最も大事なことは、途上国の実情を理解することです。そのため、発展途上国の実態を先ず知り、それぞれの途上国に合った支援を考える必要があります。そして、そのような支援の中には、農業振興や産業育成のような経済開発分野、教育や福祉、保健衛生のような社会開発分野、環境・生態系保全のような環境分野があります。

東江 日出郎 准教授

●出張講義分野

発展途上国の実態、国際開発(協力)論、
途上国開発と地域住民・行政・政治

●研究分野のキーワード

国際開発論、開発と政治・行政、開発と平和

●専門分野

国際開発(協力)論、開発と政治・ガバナンス



大学ではこんなことを研究しています

世界の途上国では、政治や行政が健全でないために、貧困や飢餓、貧富の格差、環境の破壊、民族紛争、感染症など、様々な問題を引き起こしています。また、その途上国の政治や行政の悪さの背景には、現在の先進国がかつて行った植民地支配が影響しています。そのため、政治や行政を良くすることそれ自体が重要になります。私は、途上国の政治や行政と開発の関わりの実態を調べ、それを改善するにはどうすればよいかを、東南アジアのフィリピンを事例に考えています。

先生からメッセージ

皆さんが「世界」という時、頭に思い浮かべるのはどの国でしょうか。アメリカ、中国、イギリス、フランスなど、欧米やアジアの一部の「先進国」ではないでしょうか。これらの先進国は、世界の1/6にも満たない国々です。つまり、世界の圧倒的多数派は「途上国」で、途上国のことを知らないで「世界を知っている」とは言えません。世界の広さと多様性を理解し、途上国と自分の生きている日本の関係性を理解した上で、何故、国際協力が必要で、どんな協力が行われているかを考えてみませんか。

略歴 名古屋大学大学院国際開発研究科国際協力専攻博士課程後期課程修了。博士(国際開発学)。
日本国際協力センター技術専門家、米国のEast-West Center客員研究員(国際交流基金小淵フェローシップ)、
名古屋大学等非常勤講師、金沢大学准教授を経て、2020年9月より現職。